

つまずきに対する理解の視点

- ① 発達論的視点からの理解
(発達段階を捉える)
- ② 行動論的視点からの理解
(原因と結果の関係を捉える)
- ③ 認知論的視点からの理解
(認知処理の特性を捉える)

子どものつまずきを理解するためには3つの視点が考えられますが、ここでは認知論的視点からの理解と支援について考えます。

認知処理を生かす指導

短所改善型指導

(Weakness Oriented Approach)

→弱い能力それ自体を改善しようとする

例) 視覚的な認知が弱い子どもに、見ることによって物をとらえる学習を何度も繰り返す



過剰な努力が必要，自発的な学習を阻害

子どもの弱い能力は、目につきやすく分りやすいものですが、その弱い能力を改善しようとする指導を「短所改善型指導」とよびます。

この「短所改善型指導」では、子どもの自発的な学習を阻害してしまう可能性があります。

長所活用型指導 (Strength Oriented Approach)

→強い能力や認知処理能力を活用する
できないこと(技能)をそのままにすることではない

例)話を聞いて理解するより読んで理解することが得意な子どもに説明の内容を板書する



効率的に、自発的な学習を促す

「短所改善型指導」に対して、子どもの強い能力や認知処理能力を活用する指導を「長所活用型指導」とよびます。

この「長所活用型指導」の方が、子どもの自発的な学習を促すのではないかと考えられます。

強い認知処理を活用した指導

継次処理型指導方略

- ・段階的な教え方
- ・部分から全体へ
- ・順序性の重視
- ・聴覚的, 言語的の手がかり
- ・時間的, 分析的

同時処理型指導方略

- ・全体を踏まえた教え方
- ・全体から部分へ
- ・関連性の重視
- ・視覚的, 運動的の手がかり
- ・空間的, 統合的

認知処理には、大きく分けて「継次処理」と「同時処理」があると考えられる理論があります。それぞれの処理を活用した指導方略を「継次処理型指導方略」「同時処理型指導方略」とよんでいます。

引用: 藤田和弘・青山真二・熊谷恵子(1998). 長所活用型指導で子どもが変わる. 図書文化

継次処理型指導方略

部分から全体へ

注目させるべき刺激を、初めは部分的に提示し、徐々に全体へ広げていく指導

木+ツ+女=桜

同時処理型指導方略

全体から部分へ

複数の刺激を1つのかたまりとして初めからいちどに提示し、刺激全体をとらえさせてから細部へ移行させていく指導

時=日+土+寸

漢字の覚え方について、強い認知処理を活用した指導例を紹介します。

継次処理型は、漢字の構成する部品を組み合わせていき「部分から全体」に注目させる方法、同時処理型は漢字をいくつかの構成する部品に分解し「全体から部分へ」注目させる方法が考えられます。

教室の中には、「部分から全体」の方がわかりやすい子どもと「全体から部分」の方がわかりやすい子どもがいるかもしれません。

認知処理能力に配慮した指導事例

- 通常学級に在籍する小学校6年生，高機能自閉症と診断されているAくん。
- 算数の文章題など文章問題を読むことが苦手。
- 小学校1年時から言語通級指導教室に通っている。
- 国語で特に作文を苦手としており，作文を書く時の特徴として，決まったパターンの文章しか書けないことが多い。

認知処理能力に配慮した指導事例を紹介します。

通常学級に在籍する小学校6年生，国語で特に作文を書くのが苦手なAくんです。

（事例提供：奥寺綾子 北海道星置養護学校）

WISC-IVの結果

- 聴覚的短期記憶やワーキングメモリーの弱さ
- 視覚情報からの概念処理が強い

KABC- II の結果

- 同時尺度, 学習尺度が高く, 継次尺度が低い
- 聴覚的短期記憶の弱さ

Aくんに実施したWISC-IVの各指標の合成得点を比較するとワーキングメモリー指標が低く、「強い能力と弱い能力の判定」では下位検査の[数唱]と[語音整列]が弱い判定でした。また「ディスクレパンシー比較」の下位検査レベルの比較[類似-絵の概念]では、[絵の概念]が強く、有意な差がみられました。

KABC- II の各尺度の標準得点を比較すると、同時尺度と学習尺度が高く、継次尺度が低く、[数唱]と[語の配列]の評価点が低いという結果でした。

総合的な解釈

- 作文を書くためには書く内容を保持しておきながら、文法、適切な語彙、文字の正誤、句読点などを絶えず確認しなければならず、「書く内容の保持」と「書く」という作業を並列的に行うことによって、ワーキングメモリーに負担がかかる

「2つのことを書いて1つにまとめるのは頭がパンクしそう」

- 予め書く内容を考え、原稿用紙の最初から順番に記述する作業は、苦手な継次処理能力を必要とする

ワーキングメモリーと継次処理の弱さに配慮する

WISC-IVとKABC-IIの結果から、Aくんはワーキングメモリーと継次処理の弱さが作文の苦手さに影響しているのではないかと考えました。